
探し物・・・

東風こち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

探し物・・・

【ZPDF】

Z0199F

【作者名】

東風こじ

【あらすじ】

私は何かを探しながら歩いていた。それが何だったか思い出せないまま・・・。

私は、あてもなく歩いている。それは、あるものを探してなのだが、それが何だったか忘れてしまっていた。

なんだつたのだろう・・・、思い出せないものは仕方が無い。きつとそれほど重要なもののじゃないんだろうな。

そんなことをあれこれと考えながら歩いていると、普段歩いたことの無い路地に入っていた。

住宅街、周りには家、家、家・・・、しかし落ち着かないくらいに静かだ。犬や猫を飼っている家も無いのか。

そのまま、無心に暫く歩く。すると、かなり前方に歩いている人が見えた。とりあえず追いつこうと早足になる。

前方を歩いていた人は、急に左の路地に向きを変えて入つていった。私も急いで後を追うが、角を曲がったとき・・・。

・・・気がつくと、私はあてもなく歩いていた。あるものを探していたはずなのだが、それが何だったか思い出せない。

ここは・・・、住宅街か。周りは家だらけだ。しかし、落ち着かないくらい静かだな。人は住んでいるのか？

とりあえず周りを見回しながら歩く。ここはどこだろう？。この辺は人影もない。だが、どこか見覚えのある景色だ。

そう思いながら歩いていると、かなり前方に歩いている人が見えた。とりあえず追いつこうと早足になる。

しかし、もう少しで追いつくと思ったその人影は、急に左の路地に入つていった。私も左の路地に入る。

そこにいたのは、あの前方を歩いていた人・・・だろうか？今は目の前にこちらに向かつて立つていた。

「どうした？私に用があるんじやないのかね？」

その男は、何もかも知つてゐるぞという風に私に話しかけてきた。

「・・・・・」

私がどう言おうかと迷つてゐると、

「ふ、まあいいさ。何も言いたくないなら、そうしなさい。だが、それでは『探し物』は見つからぬぞー。」

「な・・・」

「じゃあ、私はそろそろ行くからな」

私が何か言おうとする前に、男はその場を立ち去ろうとした。“待つてくれ！”私はそう言おうとして、目の前が真つ暗になつた。氣を失う寸前、私の後ろにも人がいたことに気がついた。しかも、そいつは手に血の滴るこん棒を持つていた・・・。

私は、あてもなく歩いている。それは、あるものを探してなのだが、それが何だつたか忘れてしまつていて。何だか後頭部がズキズキする・・・。

(後書き)

結構短編にするとすらすらと書けるのですが、それが作品としてどうなのか分かりません(^ - ^ ; . .)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0199f/>

探し物・・・

2010年10月17日10時03分発行